# 【連載】三田未来予想図
## ―明日への「ギフト」

私たちの「今」は「明日」への贈り物。

今年、三田市は市制施行 60 周年。この機会に、皆さんとともに「未来」へつなぐ三田市のまちづくりについて考えるため、現在の課題をテーマに、全８回で連載します。

連載④

# 「つながり」という居場所
## ― 地域ぐるみで子育てを ―

近年、少子高齢化や核家族化、ライフスタイルの多様化などにより地域コミュニティの希薄化が指摘されています。それに伴い、子どもたちの生活圏における人とのつながりが薄れるなど、子どもを取り巻く環境も変化しています。今回の連載では、地域の現状や地域ぐるみで子育てしている取り組みを通して、これからの地域と子どもの関わりについて考えます。今から自分にできること、探してみませんか。
問い合わせ＝健やか育成課 (559-5046 FAX 563-3611)

## Chapter 1
## 変化する子どもたちを取り巻く環境

子どもが育つ環境は、以前と変化しています。かつて子どもたちは、日常生活の何気ない地域の人との関わりや、さまざまな交流を通じて社会性を身につけていました。多くの大人による見守りがあり、年代の異なる子ども同士で遊びの伝承なども行われていました。しかし、さまざまな社会環境の変化などにより、現在ではそうした機会が少なくなっています。それに伴い、これからの地域に求められるものは何でしょうか。

### アンケートからみる意識

子育て世帯の生活実態、地域との関わりなど、三田市ではどのような現状があるのでしょうか。

Q．子どもにとって、どのような支援があるとよいと思いますか？
➡ A．地域における子どもの居場所の提供 など

Q．ご近所とお付き合いはありますか？
➡ A．ある 66.1%

Q．平日、子どもと一緒に何かしたり相手をしたりしている時間は１日あたり平均するとおよそどれくらいですか？
➡ A．1時間未満 29.9%

平日、子どもとふれあう時間が「１時間未満」の保護者が約３割。また、ご近所との付き合いはあるものの、地域での子どもの居場所を求める声がありました。

Infomation

右記の調査結果を踏まえ、講演会を実施します【6面参照】

［三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査（29 年度）］
※調査対象：市立の小学４～６年生と中学生およびその保護者

テーマ　地域のいま、これから　Interview

### 子どもが元気なら地域はよくなる 元気になる

放課後子ども教室・志手原
代表 杓谷（しゃくたに） 公江（きみえ）さん

志手原地域では、若い世代や子どもの数が減るとともに、60代は現役世代として活躍されており、日中地域で子どもを見守る大人が減っていると感じています。そうした背景も関係しているのか、子どもたちは帰宅後、友達と遊ぶ機会が少なくなっています。しかし、子ども同士のふれあいは、さまざまなことを学び、成長するとても貴重な時間です。そんな時間を子どもが安心して過ごせるよう開いた志手原放課後子ども教室も今年で10年目。保護者同士のつながりや学校の協力によって活動をつないでいます。教室で大切にしていることは、子どもの意思を尊重した「ありのままを見守る」こと。日常の中で、友達や大人など自分を認めてくれる人がいると知ることで、子どもの心には自己肯定感や安心、地域への愛着が生まれます。そんな元気な子どもが増えることで、地域は必ず元気になります。子どもの元気をチカラに、居心地のいい空間を地域で築きつないでいくことが、いい地域づくりにもつながるのではないでしょうか。

## Chapter 2
## 子どもの笑顔守るためにできること

子どもを取り巻く環境が変わっても、子どもたちが笑顔で過ごし、心豊かに育つよう、地域でさまざまな取り組みが行われています。その中のひとつが、地域住民による子どもの居場所づくり「放課後子ども教室」です。小学校区単位で行われる本教室は、校区内在住の子どもが対象で、現在、20 校区中 13 校区で実施されています。地域ぐるみの子育てが、今、広がっています。

### 放課後子ども教室とは？

子どもたちの安心・安全な居場所づくりのために、地域住民が放課後や休日に小学校や地域の施設などを利用し、さまざまな活動を行っている事業です。地域の達人たちによるイベントや、自然体験、伝統行事など、地域ごとにその特色を生かして実施されています。多世代と心を通わせる工夫が散りばめられています。

Q&A
放課後児童クラブと何が違うの？

児童クラブ　放課後に、保護者の就労等により適切な保護を受けることができない小学校の児童が対象で、遊び場や生活の場を提供します。

子ども教室は、地域の皆さんによって主体的に行われる活動なんだね

テーマ　放課後子ども教室の魅力 × 地域のつながり　Interview

### 子どもの笑顔でつなぎ、つながる地域の絆

放課後子ども教室・富士［寺子屋］実行委員会の皆さん
代表 今井（いまい） 弘志（ひろし）さん
松尾さん　加藤さん　水野さん　今井さん

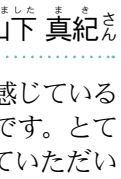
地域の子どもたちに学ぶことの楽しさを知ってもらうことを目的に、得意な理系分野を生かし、「寺子屋」の活動をしています。単身赴任が長かったこともあり、定年後、地元と結びつきたいという想いから始めました。継続することは大変ですが、問題が解けたときの喜びを共有できるやりがいや、子どもたちと心から笑えたり、活動を通じて大人とのつながりもできること、地域の関わりを実感できることが、大変さに勝る生きがいとなっています。一年前始めた当初は分からないこともありましたが、「弥生てらこや」のノウハウの引き継ぎや、地元団体、学校の協力や支えにより乗り越えられました。私が多くの結びつきに助けられたように、私も作った資料は残すなど、皆さんのお役に立てればと考えています。さまざまな喜びやつながりを感じられるこの活動が広がっていけばいいなと思います。

## Chapter 3
## 地域を「場所」から「居場所」へ

子どもが心豊かに成長できる地域―それは、地域に住む全ての人が我が家のような心地良さや安らぎを感じることのできる「居場所」です。居場所は「人と人とのつながり」によって生まれます。放課後子ども教室は、子どもたちが放課後に過ごす「場所」としてだけでなく、地域の人との関わりを通じて「つながり」を確認できる「居場所」として、子どもたちの安心や地域への愛着につながっています。地域に子どもたちの「居場所」があることは、保護者にとっても大きな安心となります。大人たちが地域の中で子どもに目を向けることは、子どもの安心な居場所づくりの第一歩です。

親のキモチ　保護者の声

富士の寺子屋参加者の保護者・山下さんに話を聞きました



富士が丘在住
山下（やました） 真紀（まき）さん

娘が寺子屋に通い始めて１年。とても驚いたのは、その日の寺子屋での様子を書いた「連絡シート」に、私が常々娘に対して感じていることが書かれていたことです。とてもよく子どものことを見ていただいていると感じます。娘が参加自由の教室に楽しんで通っている姿を見て、子どもたちにとっても、とても居心地がいいのだと思います。学校と連携して実施されていることにも安心を感じます。何より、地域に「信頼できる大人」が増え、私たちの安心につながっています。

## Chapter 4
## 地域ぐるみの子育てがつなぐ地域の未来

子どもにとって、身近な地域でさまざまな世代と心を通わせた経験は、成長しても、それが心の拠り所となるのではないでしょうか。地域ぐるみの子育ては、地域の絆が深まり、地域の元気にもつながります。そして、子どもたちは地域への愛着や感謝の気持ちを育み、地域を未来へとつなぐ架け橋となります。子どもたちの笑顔あふれる地域となるよう、できることから始めませんか。

テーマ　つながりが築く「地域が好き」と「地域の未来」　Interview

### てらこやが自分の居場所に 地域のおじさんたちが家族に

放課後子ども教室・弥生［てらこや］
参加者
木下（きのした） 聡一郎（そういちろう）さん

中学1年の夏、苦手な数学を地域の人が教えてくれる「てらこや」に通い始めました。丁寧な説明や、質問しやすい雰囲気から、気付けば、卒業するまで通い続けていました。また、勉強以外の相談にも乗ってくれたり、間違ったことをすると叱ってくれたり、いつの間にかてらこやが自分の家のように心地よい居場所に。勉強の楽しさも知りました。高校受験前、とても不安でしたが、ずっとそばで見てくれていたてらこやのおじさんたちの「大丈夫」の一言は、何よりの支えになりました。合格発表の日、結果を真っ先に報告したのはてらこやでした。「心配してたんだ、よかったね」と家族のように喜んでくださったときは、胸がいっぱいになりました。今度はぼくが次の世代に教えられるよう、高校生になった今も通っています。地域へ恩返しがしたい。おじさんが親のようにいつも寄り添ってくれた温かさを弥生や他の地域にもつないでいきたい。そう思える地域であることがとても幸せです。